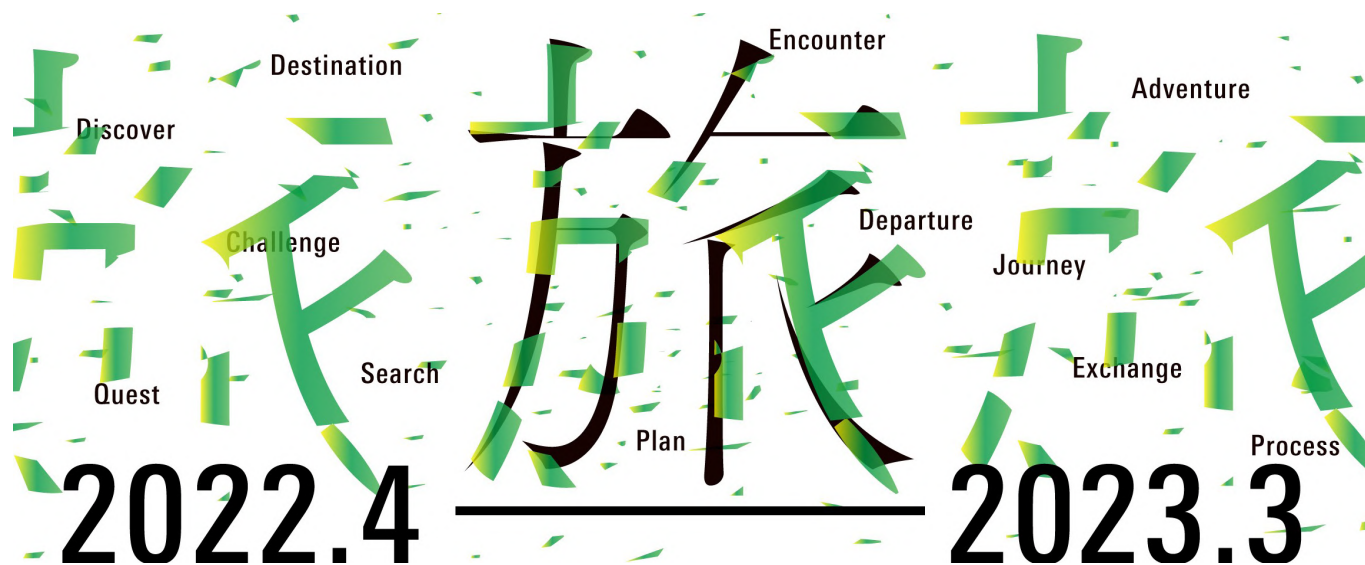




ロームシアター京都 2022 年度(令和 4 年度) 自主事業ラインアップ

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
2022 年 3 月 22 日 報道発表資料

情報解禁日時：2022 年 3 月 25 日(金) 正午

【本リリースに関するお問合せ先】

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

広報担当：松本、山形

電話：075-771-6051（10:00～17:00） FAX：075-746-3366

E-mail：press@rohmtheatrekkyoto.jp <https://rohmtheatrekkyoto.jp/>

ロームシアター京都 2022 年度 自主事業ラインアップ

<u>作品創造</u>	Sound Around 002.....3 レパートリーの創造 [新作] 松田正隆 作・演出「文化センターの危機」.....4 レパートリー作品 [再演] 松田正隆 作・演出「シーサイドタウン」 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIX G. ブッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」.....5 レパートリー作品 市原佐都子 / Q「妖精の問題 デラックス」久留米公演.....6 レパートリーの創造 高谷史郎 新作クリエーション
<u>京響プログラム</u>	ロームシアター京都 × 京都市交響楽団 シアターオーケストラ・コンサート シリーズ.....7
<u>伝統芸能の継承</u>	《継承と創造》「宮古・八重山・琉球の芸能」.....8 市民寄席.....9 第71回京都薪能一京都能楽会八十周年一.....10 能の世界へおこしやすー京都薪能鑑賞のための公開講座ー 能楽チャリティ公演 ～祈りよとどけ、京都より～.....11 芸能の在る処～伝統芸能入門講座～
<u>ロームシアター京都 セレクション</u>	パルコ・プロデュース「セールスマンの死」.....12 ディミトリス・パパイオアヌー「TRANSVERSE ORIENTATION」.....13 Noism× 鼓童 新作公演「鬼」.....14 京都市立芸術大学音楽学部創設70周年記念・移転整備プロジェクト「オーケストラ協演！ in ロームシアター京都」.....15 クロノス・カルテット《ブラック・エンジェルズ》&《ディファレント・トレインズ》.....16 ノイマルクト劇場 & 市原佐都子 / Q「Madama Butterfly (蝶々夫人)」.....17 [フェスティバル] KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2022 カンパニーXY with ラシッド・ウランダン「Möbius / メビウス」.....18 ロームシアター京都 × 京都芸術センター U35 創造支援プログラム「KIPPU」 2021 年度参加アーティスト 敷地理「Hyper Ambient Club」.....19 ロームシアター京都 × 京都芸術センター U35 創造支援プログラム「KIPPU」 2022 年度参加アーティスト ①空間現代 ②努力クラブ.....20 木ノ下歌舞伎「桜姫東文章」.....21
<u>ラーニング</u>	新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022「蝶々夫人」.....22 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIX 子どものためのオペラ 歌劇「ラ・ボエーム」より 劇場の学校.....23 ロームシアター京都 × 京都市ユースサービス協会連携事業 未来のわたし - 劇場の仕事 - リサーチプログラム
<u>コミュニティ</u>	ホリデー・パフォーマンス.....24 “いま”を考えるトークシリーズ プレイ！シアター in Summer 2022 ステージプログラム 「快傑ゾロ」アルファ劇場 from チェコ共和国.....25 プレイ！シアター in Summer 2022 オープンウィーク.....26 プレイ！シアター in Summer 2022 京都市交響楽団 0 歳からの夏休みコンサート OKAZAKI PARK STAGE 2022.....27 地域の課題を考えるプラットフォーム「仕事と働くことを考える」(その2) ロームシアター京都 × 京都市文化会館 5 館連携事業「シアターデビュー！」促進プログラム.....28 WEB マガジン「Spin-Off (スピンオフ)」 機関誌「ASSEMBLY (アセンブリー)」 アセンブリープログラム.....29 音楽総合体験施設 ミュージックサロン

Ⅰ 2022 年度自主事業の企画にあたって

ラインアップテーマ「旅」

「コロナが落ち着いたら」、「コロナ禍の状況を鑑みて」という言葉をこの2年間、苦渋の思いで何度も繰り返してきました。「コロナ禍」「三密」「ソーシャル・ディスタンス」という耳新しい言葉も、今では定着してしまいました。2021年度は、ラインアップテーマを「声」とし、停滞した舞台芸術活動を再開し、自分たちの「声」＝表現を取り戻そうと、制限のある上演・創作環境のなかでも場をつくり出し、観客との関係をあきらめないアーティストたちとの協働によってプログラムを展開しました。しかし、オミクロン株の蔓延によって、再び、舞台芸術は多大な影響を受け、ロームシアター京都の公演も年明け以降中止が相次ぎました。マスクをつけて発する「声」がどこまで観客に届いたのかと振り返りつつ、2022年度を迎えます。

2022年度のラインアップテーマは「旅」です。言わずもがな移動の制限があったこの2年、人々は旅する自由を奪われました。しかし、旅の醍醐味はさまざまです。その計画や準備、道中にこそ楽しさがあるという人もいます。またこのコロナ禍で、私たちは近頃の「当たり前」の日常の大切さ、そしてその中にも冒険があることを知りました。2022年度のテーマには、新しい出会いや発見、そこに行くまでの過程やリサーチ、そして何かを探求すること、チャレンジなど「旅」から想起するいろんな言葉や意味合いを含めています。ここから遠いどこかや未来について思いを馳せたり、古から伝わる技や鍛えられた身体に驚かせられたり、そして社会や平和について考え、自分自身を見つめる機会であったり…。国内外の新鋭からそのジャンルを代表するようなアーティストまで多彩なプログラムを通して、皆様をさまざまな「旅」に誘います。音楽・演劇・ダンスを灯りに、この困難な世界を旅してみませんか。

劇場の財産となる作品をプロデュースするシリーズ「レパートリーの創造」では、松田正隆による2021年1月に発表した『シーサイドタウン』と、その延長線上にある新作を二本続けて上演します。共に松田の故郷・長崎を彷彿とさせる海辺の地方都市を描きます。途絶えていた海外アーティストによる上演は、ギリシャ、チェコ、アメリカ、フランスなどから話題作がやってきます。待ちに待った瞬間が実現することを切に願います。音楽プログラムでは演出家 白井晃を迎えて、京都市交響楽団の更なる魅力を引き出すプログラムをはじめ、これからの「音楽」を考える機会を生み出します。2020・2021年度に中止となった公演の振替も並んでいます。おきなわの三地域からの貴重な演目群、『妖精の問題 デラックス』（レパートリーの創造 2022年1月発表）の記憶も新しい市原佐都子とスイスの劇場との共同製作等、満を持しての上演となります。そして、ラーニングやコミュニティプログラムの充実にも取り組みます。

ある方がロームシアター京都の中庭、ローム・スクエアを「縁側」に例えてくださったことがあります。屋外などのオープンスペースでの企画は、ホールの中かで上演しているコンサートや公演をちらっと覗くような体験になると。今年2月に開催した「いま」を考えるトークシリーズVol.18に登壇いただいた藤原辰史さん、小山田徹さんからは、公共の場には、雨や風、暑い日差しから身を守る「軒下」のようなアジール（避難所）の役割を担う場所が必要であるというお話がありました。約束をしインターホンを押して「玄関」から入る＝チケットを購入して決まった時間に劇場に足を運ぶこともあれば、ふらっと「縁側」に立ち寄って中を覗き込む、何かを求めて「軒下」に駆け込む。この「縁側」と「軒下」の例えから、自主事業のラインアップや劇場を開かれた場にするためのヒントを得たように思いました。ここ京都に「劇場文化」をつくり、それをどっしりと根付かせ、そして新たな芽が息吹くように「玄関」、「縁側」、「軒下」…という入り口を増やし、拡げるように努めてまいります。ぜひ2022年度もロームシアター京都の活動にご注目いただけたら幸いです。

2022年3月22日
プログラムディレクター 小倉由佳子

I 2022年度自主事業ラインアップ 6つの事業カテゴリー

①作品創造

劇場の財産となる作品のプロデュースや国内外のアーティストとの協働により、ロームシアター京都を創造の場として活かした事業を展開します。

②京響プログラム

ロームシアター京都は京都市交響楽団の第2のフランチャイズホールです。音楽のみならず他ジャンルとのコラボレーションなどで京響の新たな魅力を広げます。

③伝統芸能の継承

日本舞踊、能楽、文楽、雅楽といった古典芸能に加え、地域ごと継がれてきた民俗（郷土）芸能を独自の切り口で紹介し、伝統芸能の面白さを伝えます。

④ロームシアター京都セレクション

国内外からの選りすぐりの舞台芸術作品をご紹介します。次代を担う若手アーティストの創造支援やKYOTO EXPERIMENT などさまざまな施設や団体と連携して行うプログラムもあります。

⑤ラーニング

小中高生、それぞれの年代に応じた育成事業を展開するほか、舞台芸術に関わるレクチャーやリサーチを創作・実践の場と連動して行います。

⑥コミュニティ

多様なライフスタイルと密着したプログラムや、ホールを飛び出して行う事業などを通して、京都・岡崎地域の施設や団体と連携を深め、地域の活性化に繋がります。

I 自主事業企画メンバー紹介

プログラムディレクター



小倉由佳子 Yukako Ogura

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）事業担当係長。2021年度～プログラムディレクター。AI・HALL（伊丹市立演劇ホール）でディレクターを務めた後、2016年よりロームシアター京都に勤務。

ロームシアター京都 事業企画チーム



写真：山地憲太

<メンバー（2022年3月現在）>

木原里佳、斎藤啓、里見明音、長野夏織、枡谷雄一郎、松本花音、山形ゆき

I Sound Around 002

主催

音楽

美術・映像

日程：6月11日（土）・12日（日） 出入自由
11日 13:00～20:00 / 12日 11:00～18:00
会場：ノースホール

2日間“変化”しつづける革新的サウンドパフォーマンス

ジャンルや固定観念にとらわれない「音楽」を軸とした表現活動を行うアーティストによるパフォーマンスを紹介するシリーズの第2弾です。今シーズンのテーマは「即興／変化」。モーターと養生テープを使用したサウンドパフォーマンスを行うユニット「正直」をホストに迎えます。ホストによるパフォーマンスはもちろん、ゲスト・パフォーマーとのコラボレーション、レクチャー形式のトークコーナーなどが2日間にわたり繰り広げられます。同時に、空間や客席は、2日間を通して、つくる・壊すなどの試行を繰り返しながら常に変化していきます。パフォーマンス&展示形式の開催となりますので、パフォーマンスだけを観るもよし、何が起ころか1日見守るもよし、自由なスタイルでお楽しみください。

ホスト・出演：正直 [小林 稜、時里 充]

ゲスト：前後 [神村 恵（ダンサー）＋高嶋 晋一（美術作家）]

山田 亮太（詩人） ＊11日のみ

石若 駿（打楽器奏者） ＊12日のみ

THE COPY TRAVELERS [加納 俊輔／迫 鉄平／上田 良]

佐々木 文美（セノグラファー）

土方 大（アーティスト／インストレーター）

金子 智太郎（美学研究者） ＊11日のみ

正直 Shojiki

小林 稜と時里 充によるユニット（バンド）。2016年結成。できるだけ正直に演奏することをコンセプトに、最近はモーターと養生テープを使用した演奏を行う。2018年、Basic Function からカセットテープ作品「KB」をリリース。2019年、アルス・エレクトロニカ（オーストリア・リンツ）にて Honorary Mentions 受賞。ロームシアター京都では「ホリデー・パフォーマンス Vol.7」（2021年3月）に出演。

前後 Zen-go

ダンサー・振付家の神村 恵と美術作家の高嶋 晋一によるパフォーマンス・ユニット。身体／物体／言語が拮抗する地点を立ち上げる試みを行う。近年の上演に《眺めるを振り付ける》（Whenever Wherever Festival 2021、東京）、《subjunctive mood lesson（仮定法のレッスン）vol.2》（TERATOTERA 祭り 2019—選択の不自由、東京）など。

山田 亮太 Ryota Yamada

詩人。詩集に『ジャイアントフィールド』（思潮社）、『オバマ・グーグル』（思潮社、小熊秀雄賞）、『誕生祭』（七月堂）。共著に『猫と一緒に外国へ行く』（TOLTA）、『新しい手洗いのために』（素粒社）など。ヴァーバル・アート・ユニット「TOLTA」メンバー。

石若 駿 Shun Ishiwaka

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校打楽器専攻を経て、同大学を卒業。卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞を受賞。リーダーとして、Answer to Remember、CLNUP4、SMTK、Songbook Trio を率いる傍ら、くるり、CRCK/LCKS、Kid Fresino、君島大空、Millennium Parade など数多くのライブ、幅広い作品に参加。

THE COPY TRAVELERS

京都を拠点として活動する美術家の加納 俊輔、迫 鉄平、上田 良によって2014年に結成されたユニット。写真や映像をメインに活動している三人のエッセンスをミックスしながら、「複製」という手法の可能性について、コピー機やスキャナ、カメラなどのツールを用いて日々実験に勤しむ。また、アートブック出版、展覧会などの活動を行っている。

チケット情報

出入自由

1日券（各日）：一般 3,000 円、ユース（25 歳以下）2,000 円、18 歳以下 1,000 円

2日通し券：一般 4,500 円、ユース（25 歳以下）3,000 円、18 歳以下 1,500 円

未就学児無料、年齢制限なし（未就学児入場可）

※固定の座席はありません。立見の場合もあります。

※終日出入自由ですが、混雑状況により、お待ちいただく場合があります。

[5月12日（木）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

レパートリーの創造

【新作】松田正隆 作・演出「文化センターの危機」

主催

演劇

日程:2023 年 2 月中旬(予定)

会場:ノースホール

松田正隆書き下ろしによる劇場レパートリー作品の第二弾！

2020 年度のレパートリー作品「シーサイドタウン」に続き、劇作家・演出家の松田正隆が新作を書き下ろします。本作も、自身の故郷・長崎を舞台として、地方都市に暮らす人たちの生きざまを描きます。文字通り「シーサイドタウン」の続編ともいえるこの新作を、「シーサイドタウン」と一緒にご覧ください。

ロームシアター京都 レパートリー作品

【再演】松田正隆 作・演出「シーサイドタウン」

主催

演劇

日程:2023 年 2 月中旬(予定)

会場:ノースホール



Illustration: Fuyuki Kanai



松田正隆作・演出「シーサイドタウン」 Photo: Toshiaki Nakatani



2020 年に製作したレパートリー作品をふたたび上演。

描かれるのは、ある海辺の町に住まう人たち

2020 年度のレパートリー作品として、松田正隆が書き下ろした「シーサイドタウン」。長らく京都で活動した後、現在は東京を拠点にする松田にとって、京都で自身の演出作品を上演するのは約 10 年ぶりのことでした。戯曲に立ち返りながら、マレビトの会で積み重ねた作劇方法を発展させ、物語を上演することの本質に迫ったこの作品は、大きな反響を呼びました。待望の再演です。

<あらすじ>

この国の西の果て、海辺の町。一軒の空き家に一人の男(シンジ)が住みはじめる。シンジは東京で職をなくし行き場を失い、故郷に帰ってきた。荒廃していく地方の町では凡庸なるファシズムが横行し、シンジは戸惑いながらもその流れに馴染んでゆく。相変わらず地縁・血縁のしがらみも絡みつく。日々の生活の中で「何かの兆し」は常に現れ、起こるべくして起こった事件が報告される。

[2 作品共通]

作・演出:松田正隆(劇作家・演出家・マレビトの会代表)

出演:生実慧、鈴鹿通儀、大門果央、田辺泰信、深澤しほ、横田僚平 ほか

演出助手:福井裕孝



松田正隆 Masataka Matsuda

劇作家・演出家・マレビトの会代表

1962 年、長崎県生まれ。96 年『海と日傘』で岸田國士戯曲賞、97 年『月の岬』で読売演劇大賞作品賞、99 年『夏の砂の上』で読売文学賞を受賞。2003 年「マレビトの会」を結成。主な作品にフェスティバル・トーキョー 2018 参加作品『福島を上演する』など。2012 年より立教大学現代心理学部映像身体学科教授。2021 年 1 月「シーサイドタウン」をロームシアター京都で初演し、10 年ぶりに自身の演出作品を京都で上演する。また、ロームシアター京都「劇場の学校プロジェクト」では 3 年続けて講師を務めている。

チケット情報

[「文化センターの危機」「シーサイドタウン」共通]

全席自由

一般 3,500 円、ユース (25 歳以下) 2,000 円、18 歳以下 1,000 円

※チケットは各公演ごとに必要です ※2 公演セット券を発売予定、料金未定 [11 月発売開始予定]

企画製作:ロームシアター京都

主催:ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

協賛:京都信用金庫

小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XIX G. プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」 ROHM CLASSIC SPECIAL

日程：2023 年 3 月 17 日（金）、19 日（日）
会場：メインホール

主催

音楽



2023 年のオペラ・プロジェクトは、2021 年に新型コロナウイルス感染症の影響により残念ながら中止となった、ジャコモ・プッチーニによる歌劇「ラ・ボエーム」をあらためて上演します。ボヘミアンたちが多く集まるパリを舞台に、貧しい生活ながら愛と夢に生きた若者たちを描いた名作で、演出：デイヴィッド・ニース、装置・衣裳デザイン：ロバート・パージオラによる新制作でお届けします。日本をはじめアジア各国からオーディションを経て選出され、サイトウ・キネン・オーケストラメンバーらの熱い指導を受けて大きく成長する小澤征爾音楽塾オーケストラが演奏を務めます。

音楽監督：小澤征爾

指揮：ディエゴ・マテウス

管弦楽：小澤征爾音楽塾オーケストラ

ほか



© Shintaro Shiratori

小澤征爾音楽塾とは

小澤征爾音楽塾は、ローム株式会社の佐藤研一郎社長（当時）と小澤征爾がオペラを通じて若い音楽家を育成することを目的に、2000 年に立ち上げた教育プロジェクトです。恩師カラヤンの教えである「交響曲とオペラは車の両輪のようなもの」を持論とする小澤が「教えること」に生涯を捧げたもう一人の恩師斎藤秀雄のスピリットを受け継ぎ、若い音楽家たちとともに学ぶ場として開催しています。毎年、国内外でのオーディションで選ばれたアジア諸国（日本、中国、台湾、韓国）の若い音楽家たちでオーケストラを結成し、小澤征爾とサイトウ・キネン・オーケストラメンバーをはじめとする演奏家のもとで指導を受け、分奏や歌手とのリハーサルを重ねながら、世界の歌劇場で活躍するオペラ歌手や演出家と共に高水準のオペラ「小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト」を創り上げます。

チケット情報

席種・料金・発売日未定

主催：小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン
京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

共催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

協賛：ローム株式会社

企画・制作：ヴェローザ・ジャパン

ロームシアター京都 レポートリー作品 市原佐都子 /Q「妖精の問題 デラックス」 久留米公演

演劇

日程：7月2日(土)、3日(日)
会場：久留米シティプラザ Cボックス
(福岡県久留米市)



Photo: Toshiaki Nakatani

2021年度製作のレポートリー作品が早くも巡演決定！

2021年度の「レポートリーの創造」作品として、ロームシアター京都が製作し、2022年1月に初演、話題を呼んだ本作を、早くも九州で上演します。相模原障害者施設殺傷事件をきっかけに創作された「妖精の問題」(2017年初演)を、当劇場のレポートリーとして再創作した本作。自虐や偏見に満ち溢れた世界をコミカルかつ強烈な言葉で描きだしながらも、「できるだけ偽善的ではない方法であらゆる生を肯定する」という試みがこめられています。三部構成のうち、漫才形式に大幅改訂された「一部」の戯曲のほか、魅力あふれる俳優陣7名に、音楽、美術、衣裳とすべてが“デラックス”版として生まれ変わった見どころ満載の作品です。

作・演出 市原佐都子

音楽：額田大志

出演：朝倉千恵子、筒井祐奈子、大石英史、キキ花香、廣川真菜美、
富名腰拓哉、緑ファンタ

美術：dot architects

衣裳：南野詩恵

<「妖精の問題 デラックス」上演歴>

2022年1月 ロームシアター京都【初演】

2022年2月 シアターコモンズ'22 / リーブラホール (東京)

製作：ロームシアター京都

主催：久留米シティプラザ (久留米市)

レポートリーの創造 高谷史郎 新作クリエーション

主催

美術・映像

日程：通年

クリエーション会場：ノースホールほか

アーティスト・高谷史郎を迎えて、劇場レポートリーとなる2023年度の新作発表を目指す中期プロジェクトの2年目です。高谷はマルチメディアパフォーマンス集団「ダムタイプ」の創設メンバーとして、ビジュアルワークを総合的に担当した後、近年はディレクションに携わってきました。また、ダムタイプの活動と並行して、30年にわたりソロ・アーティストとしても独自の表現スタイルを追求し、常に芸術と技術の新しい実験を試み、美しさと同時に、先鋭的なアイデアで世界的に注目される作品を発表しています。

■クリエーションに際して行った高谷史郎インタビューをWEBマガジン「Spin-Off」に掲載中

https://rohmtheatrekyoto.jp/archives/interview_takatani_1/



高谷史郎 Shiro Takatani

1963年生まれ。1984年からアーティストグループ「ダムタイプ」の活動に参加。様々なメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作に携わり、世界各地の劇場や美術館、アートセンターで公演／展示を行う。1998年からダムタイプの活動と並行して個人の制作活動を開始。パフォーマンス「明るい部屋」(初演：2008年ドイツ世界演劇祭)、「CHROMA」(初演：2012年 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール)、「ST/LL」(初演：2015年 ル・ヴォルカン国立舞台、フランス)を制作。マルセイユ・フェスティバル、東京・新国立劇場、台北・國家兩廳院等での公演や、ポンピドゥー・センター・メッス、ZKM (ドイツ)、シャルジャ・ビエンナーレ (UAE) などでの作品展示、東京都写真美術館での個展等。また、坂本龍一や中谷芙二子、野村萬斎、樂吉左衛門など、様々なアーティストとのコラボレーションも多数。ロームシアター京都では、ダムタイプ 新作パフォーマンス「2020」をクリエーションおよび発表(2020年/新型コロナウイルス感染症拡大防止のために上演中止、同年に記録映像の上映会及び配信を実施)。また、中高生人材育成事業「劇場の学校プロジェクト」では2019年度、メディア・パフォーマンス講座の講師を務めた。

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

ロームシアター京都 × 京都市交響楽団 シアターオーケストラ・コンサート シリーズ

日程：2023年1月14日（土）
会場：メインホール

主催

音楽

京響と白井晃の初めてのコラボレーションが実現 失われた時間と記憶、そして音楽を求めて

異分野のアーティストやクリエイターとコラボレーションすることによって、京都市交響楽団の新たな魅力を発見し、発信するこのシリーズ。今回のコンサートは、演劇を中心に、演出家・俳優として多方面で活躍しながら、音楽にも造詣のある白井晃が演出を手がけます。

世界的な新型ウイルスの流行、さらに痛ましい戦争の影響によって、芸術活動の機会を失ったアーティスト、観客は数え切れません。思いがけず、失われてしまった、かけがえのない時間。抜け落ちてしまった記憶や思い出。それらを取り戻すかのように、パズルのピースをあてはめるかのごとく、音楽をコラージュしていきます。

白井ならではの視点によって、京都市交響楽団の演奏と、人々の記憶がレイヤーのように重なり合い、聴く人それぞれの心に物語が浮かび上がります。

指揮：園田隆一郎

演出：白井晃

管弦楽：京都市交響楽団



© Fabio Parenzan

園田隆一郎 Ryuichiro Sonoda

指揮者。2006年、シエナのギジアーナ夏季音楽週間『トスカ』を指揮してデビュー。翌年、藤原歌劇団『ラ・ボエーム』を指揮して日本デビューを果たす。同年夏にはペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティヴァル『ランスへの旅』の他、フィレンツェのトスカ・管弦楽団との演奏会、カタニアのベッリーニ大劇場管弦楽団の演奏会を指揮した。その後国内外のオペラへの出演、オーケストラとの共演を重ね、オペラと交響曲の両分野で活躍する指揮者の一人である。2017年度第16回斎藤秀雄メモリアル基金賞受賞。藤沢市民オペラ芸術監督。



白井晃 Akira Shirai

京都府生まれ。早稲田大学卒業後、1983年～2002年まで遊○機械 / 全自動シアター主宰。劇団活動中よりその演出力が高く評価され、外部の演出も数多く手掛ける。現在は、演出家として作品を発表する一方、俳優としても舞台・映像ともに活躍中。2016年4月から21年3月までKAAT 神奈川芸術劇場の芸術監督。22年4月より世田谷パブリックシアターの芸術監督に就任予定。第9回、第10回、読売演劇大賞優秀演出家賞、2005年「偶然の音楽」にて、第13回湯浅芳子賞（脚本部門）、まつもと市民オペラ「魔笛」にて第10回佐川吉男音楽賞、「バリーターク」にて第11回小田島雄志・翻訳戯曲賞などの受賞歴がある。



© 井上写真事務所 井上嘉和

京都市交響楽団 City of Kyoto Symphony Orchestra

1956年に創立し、日本で唯一、自治体が設置し、運営に責任を持つオーケストラ。2015年「第46回サントリー音楽賞」受賞。同年6月ヨーロッパ公演で成功を収め、2017年「第37回音楽クリティック・クラブ賞」本賞等受賞。2020年4月第13代常任指揮者兼芸術顧問に広上淳一、首席客演指揮者にジョン・アクセルロッドが就任。2008年4月から2022年3月まで14年間にわたり常任指揮者を務めた広上淳一のもとでは、数々の名演を生み出して黄金時代を築き上げた。京響は今、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。

チケット情報

全席指定

S席 6,000円、A席 5,000円、B席 3,000円

ユース（25歳以下）S席 3,000円 18歳以下S席 2,000円

[11月発売開始予定]

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

《継承と創造》 「宮古・八重山・琉球の芸能」

日時：4月29日（金・祝）
宮古の芸能 / 八重山の芸能 13:00 開演
5月3日（火・祝）
琉球の芸能 16:00 開演
会場：サウスホール

主催

音楽

舞踊

宮古・八重山・琉球の芸能



「シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能」を発展させ、
民俗（郷土）芸能の魅力にフォーカスする

2022年2月11日（金・祝）、12日（土）に予定していた公演の
延期開催です。

ロームシアター京都では、2017年度より実施している「舞台
芸術としての伝統芸能」において、雅楽、能楽、文楽、上方舞、
歌舞伎舞踊を取り上げてきました。このシリーズの新たな
名称を《継承と創造》とし、これまで紹介してきた古典芸能に、
地域ごとに継がれてきた民俗（郷土）芸能を加え、伝統芸能
の面白さを独自の切り口で紹介していきます。今回は、各

地域の専門家や研究者に監修をお願いし、おきなわ三地域（宮古・八重山・琉球）の舞踊と唄を上演します。時代の波をくぐり、人々の生活や自然と共に育まれてきた身体と声。島々で継承され、現代に生きる芸能の姿をお見せします。

<宮古の芸能>

たいへい ふどう うぶゆう もう
太平に踊ら大世に舞ら

出演：〔宮古島創作芸能団 んきゃーんじゅく〕 友利礼、前里玲毅、真壁弘汰、友利叶夢、久高歩眸、与那覇礼夢
〔琉球舞踊穂花会・宮古舞踊 んまていだの会〕 亀浜律子、神里桐子、川満香多、瀬名波令奈、砂川徳博、砂川政秀、下地心一郎、砂川博仁
〔久田流家元・久田多嘉子舞踊研究所〕 久田亜也、与儀優子
〔唄・三線〕 與那城美和

監修：前里昌吾（「宮古島創作芸能団 んきゃーんじゅく」プロデューサー）

<八重山の芸能>

ゆがふ すいま
世果報 - ばがけーら 島とう とうむ -

出演：山里節子、大田静男、廣田律子、大浜賢二、大田八重子、西島本寿乃
〔光扇会大浜治子八重山民俗舞踊研究所〕 大浜治子、金城悦子、新城那緒子、前浜邦子、山根頼子
〔古見民俗芸能保存会〕 新盛和枝、小橋川和美、石原孝子、林良子、仲嶺科子、宮里朝枝、前元光代、大底美紀
〔八重山古典民謡保存会〕 三線：野原政俊、大浜安則 笛：近藤嘉紀 太鼓：根原格

監修：大田静男（八重山芸能研究者）

<琉球の芸能>

さくほうえん ほっきゆうじゅうにしやうきょく
冊封宴の歌 - 北宮十二頌曲

出演：〔舞踊〕 佐辺良和（作舞）、宮城茂雄（作舞）、伊波留依、高里風花、仲嶺夕理彩、宮崎花澄
〔歌三線〕 新垣俊道、徳田泰樹、島袋奈美、親川遥
〔胡弓〕 森田夏子

監修：遠藤美奈（沖縄県立芸術大学准教授）

チケット情報

全席指定

一般 3,500 円、25 歳以下 2,000 円、18 歳以下 1,000 円

※ 4月29日 宮古の芸能 / 八重山の芸能、5月3日 琉球の芸能、両日とも同じ料金です。

お得な 2日間通し券【4月29日 + 5月3日】 一般 6,000 円、25 歳以下 3,000 円

※ 18 歳以下対象の 2日間通し券は販売いたしません。

〔発売中〕

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

後援：沖縄県立芸術大学

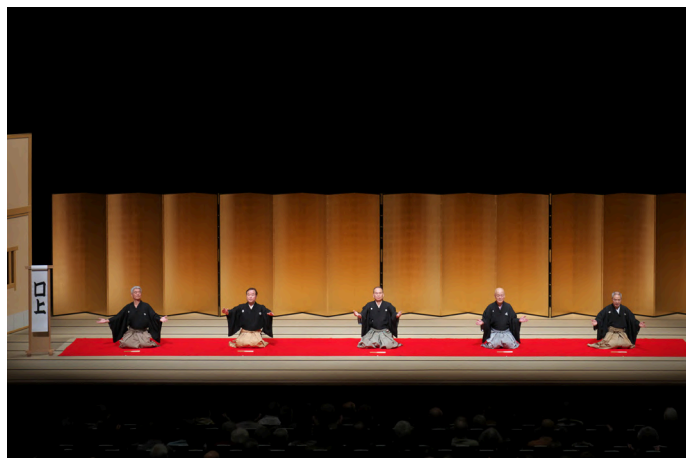
企画：ロームシアター京都、那覇文化芸術劇場なはーと

市民寄席

主催

演劇

会場：サウスホール



口上 撮影：佐々木卓男

1957年にスタートし、京都では恒例の落語会として長く親しまれてきた「市民寄席」。

幅広い世代に笑いを届ける上方落語の生の迫力と寄席の雰囲気をご体験ください。



桂 文太 / 笑福亭 仁扇 / 桂 ひろば / 桂 文路郎

第360回京都市民寄席

5月24日（火）19:00 開演

【番組】

「お忘れ物承り所（作 桂三枝）」桂 文路郎

「上爛屋」桂 ひろば

「死神」笑福亭 仁扇

「八度狸金玉仇討」桂 文太

第361回 7月26日（火）19:00 開演

第362回 9月25日（日）13:30 開演

第363回 11月22日（火）19:00 開演

第364回 2023年1月22日（日）13:30 開演

チケット情報

全席指定

第360回、第361回、第363回：前売 1,800 円、当日 2,000 円、ユース（25 歳以下）1,500 円

第362回、第364回：前売 2,300 円、当日 2,500 円、ユース（25 歳以下）1,500 円

年間席札 8,000 円、ユース（25 歳以下）6,000 円

[第360回：発売中]

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

<関連企画>

プレイ！シアター in Summer 2022 オープンウィーク

こども市民寄席

8月13日（土）

→ p.26 参照

第71回京都薪能 — 京都能楽会八十周年 —

共催

演劇

日程：6月1日（水）、2日（木）両日 18:00 開演

会場：平安神宮特設能舞台 ※雨天の場合はメインホール



能の普及と発展をめざして毎年開催され、今や京都の初夏の風物詩となっている京都薪能。夕闇の中で篝火が焚かれ、平安神宮の朱塗りの社殿が映し出されるなか、特設の能舞台が闇夜に浮かび上がり、幻想的な雰囲気包み込みます。観世・金剛・大蔵の各流派による能や狂言が楽しめるという豪華なもので、例年京都はもとより国内外からも多くの観客が来場し、幽玄の世界に酔いしれます。

6月1日（水）

金剛流能 「淡路」（シテ）金剛龍謹

観世流能 「花筐」（シテ）浦田保親

大蔵流狂言 「首引」（シテ）茂山逸平

観世流能 「龍虎」（シテ）大江信行

6月2日（木）

観世流能 「養老」（シテ）吉浪壽晃

金剛流能 「龍田」（シテ）金剛永謹

大蔵流狂言 「福の神」（シテ）茂山忠三郎

観世流能 「小鍛冶」（前シテ）大江泰正 （後シテ）橋本光史

チケット情報

全席自由 前売 4,000 円、学生前売 3,000 円、当日 5,000 円、前売団体割引 3,600 円（15 名以上）

※日にち指定制（両日共通券ではありません）

[4月16日（土）一般発売開始]

主催：京都市、一般社団法人京都能楽会 共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

能の世界へおこしやす — 京都薪能鑑賞のための公開講座 —

主催

演劇

学び

日程：6月1日（水）、2日（木）

両日 14:00 開演

会場：メインホール



京都薪能を通じて能と狂言の世界をお楽しみいただくために、出演者による公開レクチャーを今年も実施いたします。能の謡や囃子、狂言の体験を交えた解説の後に、ダイジェスト版の能も鑑賞していただけます。午後6時に開催される“京都薪能”をご覧になる前に、午後2時から無料レクチャー「能の世界へおこしやす」にどうぞお越しください。

出演：京都薪能出演能楽師

■ プログラム

・挨拶と能楽の解説

能楽師代表が挨拶及び能と狂言についての全体的な解説を行う。

・能「高砂」の謡と泣く型（シホリ）の体験

シテ方観世流能楽師またはシテ方金剛流能楽師が、能「高砂」の待謡「高砂やこの浦船に帆をあげて」より「はや住之江に着きにけり」までを観客と共に謡い、また能の泣く演技である、手で涙を抑える所作＜シホリ＞も観客と共にやる。

・囃子と狂言の解説及び掛け声や笑う型の体験

能の囃子を代表する笛方・小鼓方・大鼓方・太鼓方の能楽師が、各楽器の特長及び役割について説明し、囃子を代表して大鼓方の能楽師が鼓を打つ際の掛け声を観客と共にやる。

また、大蔵流狂言師が狂言の特徴及び役割について説明し、狂言の代表的な所作＜笑ヒ＞を観客と共にやる。

・舞囃子「嵐山」の解説と鑑賞

能「嵐山」のあらすじを説明し、その見どころを観世流と共に金剛流の舞囃子形式で上演することによって、それまでに体験した能の型や囃子の掛け声などを、実際に玄人の能楽師による舞台を通じて体感し、より深い能楽の魅力に迫る。

チケット情報

全席自由 無料、申込不要／お問合せは京都いつでもコール（075-661-3755）、ロームシアター京都（075-771-6051）

主催：京都市、一般社団法人京都能楽会、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

能楽チャリティ公演
 ～祈りよとどけ、京都より～

共催

演劇

日程：8月25日（木）

第1部 10:30 開演／第2部 18:00 開演

会場：サウスホール



京都在籍の能楽師有志による能楽チャリティ公演を開催します。

【第一部】

能「田村 替装束」 前シテ 片山伸吾 後シテ 河村晴道

狂言「柿山伏」 シテ 茂山忠三郎

能「鍾馗」 シテ 林宗一郎

【第二部】

半能「右近」 シテ 吉田篤史

狂言「舍弟」 シテ 茂山千之丞

能「鞍馬天狗 白頭」 前シテ 井上裕久 後シテ 片山九郎右衛門

チケット情報

全席自由 1,500円 [6月1日（水）一般発売開始]

主催：京都在籍能楽師有志

共催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、国際交流基金京都支部

芸能の在る処～伝統芸能入門講座～

主催

演劇

舞踊

学び

日程：年3回開催

木ノ下歌舞伎主宰で、古典芸能 / 伝統芸能に関する執筆、講座など多岐にわたる活動が注目されている木ノ下裕一氏を案内人とする伝統芸能入門講座を2021年度に続き開講します。

文楽編・松竹新喜劇編・能楽編に続き、2022年度は新たに3つの芸能を取り上げます。



© 東直子

木ノ下裕一 Yuichi Kinoshita

木ノ下歌舞伎主宰

1985年和歌山市生まれ。2006年に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。令和2年度京都市芸術新人賞受賞など受賞多数。渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』（2018）の補綴を務めるなど、古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

パルコ・プロデュース「セールスマンの死」

 日程：5月7日(土) 13:00 開演 / 18:00 開演
 8日(日) 13:00 開演
 会場：メインホール

共催

演劇


演劇界の金字塔、アーサー・ミラー不朽の名作を、豪華俳優陣で上演！

過酷な競争社会、若者の挫折、家庭の崩壊を描き、トニー賞、ニューヨーク劇評家賞、ピューリッツァ賞を受賞。演劇界の金字塔ともいえるアーサー・ミラーの「セールスマンの死」。

主人公ウィリー・ローマンを演じるのは、舞台のみならずテレビ・映画でも充実した活動が続ける段田安則。自身 65 歳の節目に満を持して挑みます。また、25 年振り 2 回目の本格的舞台となる鈴木保奈美のほか、豪華俳優陣が集結。演出に、サイモン・ステューブンスの新作戯曲『FORTUNE』（2020 年）でのセンセーショナルな演出が記憶に新しい、気鋭のイギリス人演出家、ショーン・ホームズを迎え、新たな劇世界を創りあげます。

今なお、強く胸に迫る、珠玉のヒューマンドラマにご期待ください。

作：アーサー・ミラー

翻訳：広田敦郎

演出：ショーン・ホームズ

 出演：段田安則、鈴木保奈美、福士誠治、林遣都
 前原滉、山岸門人、町田マリー、皆本麻帆、安宅陽子
 鶴見辰吾、高橋克実

<あらすじ>

舞台は 1950 年代前後のアメリカ、ニューヨーク。かつて敏腕セールスマンとして鳴らしたウィリー・ローマンも、もう 63 歳。得意先も次々と引退する中、思うようにセールスの成績も上がらない。かつてのような精彩を欠き、二世の社長からは厄介者として扱われている。

それでも地方へのセールスの旅を終え、いつもの通り帰宅する。

妻のリンダは夫のウィリーを尊敬し献身的に支えているが、30 歳を過ぎても自立出来ない 2 人の息子達とは過去のある事件により微妙な関係だ。息子たちへの不満と不安もウィリーの心をつぶす。

セールスマンこそが夢を叶えるにふさわしい仕事だと信じてきたウィリーだが、ブルックリンの一戸建て、愛しい妻、自分を尊敬する自慢の息子、一度は手にしたと思った夢はもろくも崩れ始め、全てに行き詰まったウィリーは、家族のため、そして自分のために、ある決断を下す…。

チケット情報

全席指定

11,500 円(税込) [3月27日(日) 一般発売開始]

※お一人様 1 回につき 2 枚まで

主催：ABC テレビ、サンライズプロモーション大阪

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

後援：プリティッシュ・カウシル

企画・製作：株式会社パルコ

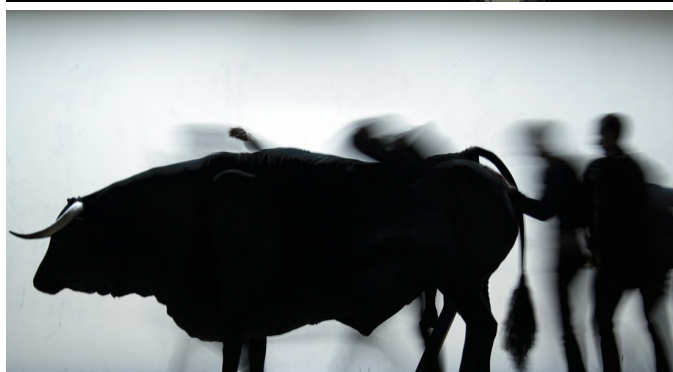
ディミトリス・パパイオアヌー
「TRANSVERSE ORIENTATION」

主催

舞踊

 日程：6月23日(木)、24日(金) 19:00 開演
 25日(土) 15:00 開演

会場：サウスホール



©Julian Mommert

あの衝撃を再び。「THE GREAT TAMER」(2019年)も記憶に新しいギリシャの振付家・ディミトリス・パパイオアヌーが最新作で約3年ぶりに来日！

アテネオリンピック開閉会式の演出を手がけ、近年ではピナ・バウシュ亡き後のヴッパタール舞踊団から初のゲスト振付家に指名されるなど、世界のアートシーンで注目が高まるディミトリス・パパイオアヌー。大好評を得た「THE GREAT TAMER」(2019年7月、ロームシアター京都)から約3年ぶりの来日公演が実現します。

今回上演するのは、2021年初演の最新作「TRANSVERSE ORIENTATION」。蛾が本能的に光を求める習性と、人生における意味を探し求める人間の衝動を重ね合わせて描かれた作品と評されています。五感を刺激する鮮烈でユーモアにあふれたシーンが次々と展開していく、圧巻のステージ。神話と芸術が交差する、ディミトリス・パパイオアヌーの独自の世界観は必見です。

ビジュアル・演出：ディミトリス・パパイオアヌー



©Julian Mommert

ディミトリス・パパイオアヌー Dimitris Papaioannou

演出・振付家。1964年アテネ生まれ。美術家として活動を始め、舞台芸術のアーティスト(演出家・振付家・美術家・パフォーマー)として知られるようになる前には、画家や漫画製作者として国際的に認められていた。NYでダンスを学び、86年に自身のカンパニーを設立。以後フィジカルシアター、実験的ダンス、パフォーマンス・アートを融合した独自の舞台創作を展開。2004年アテネオリンピックの開閉会式を演出し、世界的に注目を集める。2015-17年には『PRIMALMATTER』(12年初演)、『STILL LIFE』(14年初演)で大規模な世界ツアーを行い、2018年5月にはヴッパタール舞踊団の委嘱により同カンパニーに『Since She』を振付・演出。ピナ・バウシュ亡き後、初めて新作を発表した振付家として大きな話題を呼んだ。

チケット情報
全席指定

1階席 6,000円、2階席 5,000円、ユース(25歳以下) 3,000円、18歳以下 1,000円 [4月24日(日)一般発売開始]

<ツアー情報>

埼玉公演 6月30日(木)～7月3日(日) 彩の国さいたま芸術劇場

 主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市
 共同製作：ロームシアター京都、彩の国さいたま芸術劇場 ほか

Noism × 鼓童 新作公演「鬼」

主催

音楽

舞踊

日程：7月17日(日)16:00 開演
会場：メインホール

Noism 「春の祭典」 撮影：篠山紀信



鼓童 ワン・アース・ツアー 2019 「道」

新潟発、世界で活躍する舞踊団と太鼓集団による夢の競演！

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館の専属舞踊団 Noism Company Niigata と、佐渡を拠点に活動する太鼓芸能集団 鼓童の共演がついに実現！

新潟から世界へ向けて同時代の創作を続ける両集団が、作曲家・原田敬子による新曲で、新潟発の新作を上演します。また、バレエ・リュスの創設者ディアギレフの生誕 150 周年を記念して、ストラヴィンスキー作曲の「結婚」を Noism 版として同時上演します。

「鬼」(新作)

演出振付：金森穰

音楽：原田敬子

出演：Noism0、Noism1

演奏：太鼓芸能集団 鼓童

[同時上演]

ストラヴィンスキー「結婚」(Noism 新作)

演出振付：金森穰

音楽：I. ストラヴィンスキー (音楽は録音を使用)

出演：Noism0、Noism1



撮影：篠山紀信

金森穰 Jo Kanamori

演出振付家、舞踊家。りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督、Noism Company Niigata 芸術監督。17 歳で単身渡欧、モーリス・ベジャール等に師事。NDT2 在籍中に 20 歳で演出振付家デビュー。10 年間欧州の舞踊団で舞踊家・演出振付家として活躍後帰国。04 年 4 月、日本初の劇場専属舞踊団 Noism を立ち上げる。京都芸術センター運営委員。平成 19 年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成 20 年度新潟日報文化賞、第 60 回毎日芸術賞ほか受賞歴多数。令和 3 年紫綬褒章。ロームシアター京都開館 5 周年記念事業「舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4『雅楽』」(Noism0 出演)でも演出振付を手がけた。



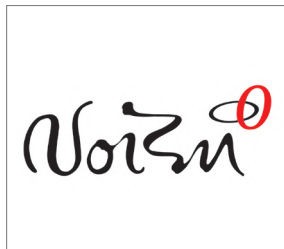
撮影：Andreas Hussong

原田敬子 Keiko Harada

作曲家。独自のアイデア「演奏家の演奏に際する内的状況を創造する」を軸に、異分野コラボレーションを含め、国内外の音楽祭や放送局、演奏団体やソリストにより委嘱を受けている。日本音楽コンクール第 1 位、山口県知事賞、芥川作曲賞、中島健蔵音楽賞、尾高賞、輝く女性賞ほか受賞。招聘個展は欧州と東ア諸国の他、'22-23 年シーズンはカナダとブルガリアで予定。'12 年から日本の地域で育まれた音文化の美学を、新たな響きと身体表現により創造し、継承を促す「伝統の身体・創造の呼吸」団体代表。4 枚の自作品集 CD は国内外からリリースされている。東京音楽大学准教授、桐朋学園大学、静岡音楽館 AOI 講師。

Noism Company Niigata (ノイズム・カンパニー・ニイガタ)

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館を拠点に活動する日本初の公共劇場専属舞踊団。芸術監督は金森穰。国内・世界各地からオーディションで選ばれた舞踊家が新潟に移住し、年間を通して活動。2004 年の設立以来、りゅーとぴあで創った作品を国内外で上演し、新潟から世界に向けてグローバルに活動を展開するとともに、市民のためのオーブンプラス、学校へのアウトリーチをはじめとした地域に根差した活動を行っている。Noism の由来は「No-ism = 無主義」。特定の主義を持たず、歴史上蓄積されてきた様々な身体表現を後世に伝えていこうとしている。



鼓童

太鼓芸能集団 鼓童 Kodo

新潟県佐渡島を拠点に太鼓を中心とした伝統的な音楽芸能に無限の可能性を見だし、現代への再創造を試みる集団。1981年、ベルリン芸術祭でデビュー。以来52の国と地域で6,500回を超える公演を行う。多様な文化や生き方が響き合う「ひとつの地球」をテーマとした「ワン・アース・ツアー」という劇場公演の他、小中高校生との交流を目的とした「交流学校公演」、様々なジャンルのアーティストとの共演、映画やゲーム音楽への参加など幅広い活動を行っている。佐渡においては国際芸術祭「アース・セレブレーション」を開催し、国際交流や地域振興にも寄与している。

チケット情報

全席指定

S席 6,000円、A席 4,000円、ユース（25歳以下）S席 3,000円、18歳以下S席 1,500円

[4月23日（土）一般発売開始]

＜ツアー情報＞

新潟公演 7月1日（金）～3日（日）りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館

埼玉公演 7月8日（金）～10日（日）彩の国さいたま芸術劇場

愛知公演 7月23日（土）愛知県芸術劇場

山形公演 7月30日（土）荘銀タクト鶴岡

*スケジュールは変更になる可能性があります

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

共同製作：りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館、ロームシアター京都、愛知県芸術劇場、荘銀タクト鶴岡

協力：株式会社北前船

助成：一般財団法人地域創造

京都市立芸術大学音楽学部創設 70 周年記念・移転整備プレ事業 「オーケストラ協演！ in ロームシアター京都」

共催

音楽

日程：10月9日（日）

14:00 開演予定

会場：サウスホール



京都市立芸術大学は、令和5年10月に京都駅東部への全面移転を予定しています。そのプレイベントとして、また、本年創設70周年を迎える音楽学部の特別記念公演として、ロームシアター京都では6年ぶりとなる主催公演を開催。学内で選ばれたソリストがオーケストラと“協演”します。

指揮：下野竜也（京都市立芸術大学音楽学部教授）/ 指揮専攻生
管弦楽：京都市立芸術大学音楽学部大学院管弦楽団



© Naoya Yamaguchi
(Studio Diva)

下野竜也 Tatsuya Shimono

指揮者。広島交響楽団音楽総監督（2017年4月～）、広島ウインド・オーケストラ音楽監督（2011年1月～）。鹿児島生まれ。2000年東京国際音楽コンクール＜指揮＞優勝と齋藤秀雄賞受賞、2001年プザンソン国際指揮者コンクールの優勝で一躍脚光を浴びる。国内の主要オーケストラに定期的に招かれる一方、ローマ・サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、チェコ・フィルハーモニー、シュツットガルト放送響、シリコンバレー響、バルセロナ響など国際舞台でも活躍している。これまでに読売日本交響楽団初代正指揮者、同首席客演指揮者、京都市交響楽団常任客演指揮者、同常任首席客演指揮者を歴任。京都市立芸術大学音楽学部指揮専攻教授、東京音楽大学吹奏楽アカデミー特任教授、東京藝術大学音楽学部指揮科非常勤講師として後進の指導にもあたる。太鼓芸能集団「鼓童」ミュージックアドバイザー。鹿児島市ふるさと大使。おじゃんせ霧島大使。

チケット情報

席種・料金・発売日未定

主催：京都市立芸術大学

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

■ クロノス・クアルテット
《ブラック・エンジェルス》 & 《ディファレント・トレインズ》

主催

 日程：9月24日（土）
 会場：サウスホール

音楽



© Evan Neff



© Lenny Gonzalez

唯一無二の世界的カルテットが、19年ぶりの来日にして京都初登場！

1973年の結成以来、現在もなお全世界で年70公演を超える演奏活動を繰り広げている、最高にユニークで、唯一無二の弦楽四重奏団「クロノス・クアルテット」。これまで数千回にも及ぶコンサートや60タイトル以上のレコーディング、様々なアーティストとのコラボレーション、そして1,000を超える弦楽四重奏のための作曲や編曲の委嘱など、前代未聞の弦楽四重奏団として、クラシックの演奏家のみならず、あらゆるジャンルのアーティストからリスペクトされています。今回、結成50周年・19年ぶりの来日になるとともに、京都で初のコンサートが実現します。

出演：クロノス・クアルテット

[デイヴィッド・ハリントン（芸術監督&ヴァイオリン）、ジョン・シャーバ（ヴァイオリン）、ハンク・ダット（ヴィオラ）、サニー・ヤン（チェロ）]

曲目：ジョージ・クラム：ブラック・エンジェルス

アレクサンドラ・ヴレバロフ：エレクトリクス・ライムズ（新作・日本初演）

ジェイコブ・ガーシック編曲：朝日のあたる家

ジョージ・ガーシュウィン（ガーシック編曲）：サマータイム

ローリー・アンダーソン（ガーシック編曲）：フロー

スティーブ・ライヒ：ディファレント・トレインズ



© Jay Blackshear

クロノス・クアルテット Kronos Quartet

サンフランシスコ出身のクロノス・クアルテットは、1973年の結成から長きにわたり、弦楽四重奏団としての可能性を追求する意志と、大胆に探求していく精神とを併せ持って活動してきた。その中で、世界で最も有名で影響力のあるアンサンブルの1つとなり、これまでに数千回にわたるコンサートを行い、60タイトルを超えるアルバムをリリース、そしてさまざまなジャンルの要素が融合した作曲家やアーティストたち、そしてマルチ・メディアのアーティストと、弦楽四重奏のための1,000以上のレパートリーの創作、演奏、録音などを行っている。これまでに2回のグラミー賞、世界的に名高い「ポラー・ミュージック賞」や「エイブリー・フィッシャー賞」、「WOMEX(World Music Expo) アーティスト賞」などを含む40以上の賞を受賞している。

チケット情報

全席指定

1階席 6,000円、2階席 5,000円、ユース（25歳以下）3,000円、18歳以下 1,500円 [6月25日（土）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

ノイマルクト劇場 & 市原佐都子 / Q
「Madama Butterfly (蝶々夫人)」

主催

演劇

日程: 9月15日(木)～17日(土)
会場: ノースホール

©Philip Frowein

「妖精の問題 デラックス」に続く市原佐都子作品を上演。
約100年以上前に描かれた物語を、同時代的視点で痛烈
に問い直す。

2022年2月26日(土)、27日(日)に予定していた公演の延期開催です。
人間の生と性に関わる違和感を大胆かつ緻密に描く新世代の劇作
家・演出家、市原佐都子。彼女が主宰する劇団 Q と、スイス・チュー
リッヒのノイマルクト劇場の共同制作作品。西洋／男性からの視
点で日本／女性が描かれたジャコモ・プッチーニのオペラ「蝶々
夫人」を原案に、その構造をひっくり返し、日本／女性からの視
点で西洋／男性を描き、我々の意識／無意識にある人種やジェン
ダーに対する先入観を揺さぶります。

作・演出: 市原佐都子

出演: 竹中香子、Yan Balistoy、Sascha Ö. Soydan

製作: ノイマルクト劇場

共同製作: 一般社団法人 Q、シアターコモンズ、チューリッヒ・シアター・スペクタクル
制作協力: 城崎国際アートセンター

©Flavio Karrer

市原佐都子 Satoko Ichihara

劇作家・演出家・小説家・城崎国際アートセンター芸術監督。1988年大阪府生まれ福岡県育ち。桜美林大
学にて演劇を学び、2011年よりQ始動。人間の行動や身体にまつわる生理、その違和感を独自の言語セ
ンスと身体感覚で捉えた劇作、演出を行う。2011年、戯曲『虫』にて第11回AAF戯曲賞受賞。2017年
『毛美子不毛話』が第61回岸田國士戯曲賞最終候補となる。2019年に初の小説集『マミトの天使』を出版。
同年『バッコスの信女 ― ホルスタインの雌』をあいちトリエンナーレにて初演。同作にて第64回岸田國
士戯曲賞受賞。公益財団法人セゾン文化財団セゾン・フェロー | アーティスト。

チケット情報

全席自由

一般 3,500 円、ユース (25 歳以下) 2,000 円、18 歳以下 1,000 円 [7 月 15 日 (金) 一般発売開始] ※推奨年齢中学生以上

主催: ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

【フェスティバル】KYOTO EXPERIMENT
京都国際舞台芸術祭 2022

主催

音楽

演劇

舞踊

美術・映像

日程: 10月1日(土)～23日(日)

会場: ロームシアター京都、京都芸術センター、
京都芸術劇場 春秋座、THEATRE E9 KYOTO
ほか

チケット情報

席種・料金・発売日未定

主催: 京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都芸術
大学 舞台芸術研究センター、THEATRE E9 KYOTO (一般社団法人アーツシード京都)]

京都発、実験的な舞台芸術を紹介するフェスティバル

KYOTO EXPERIMENT は、2010 年より京都市内で開催している舞台芸術祭です。世界各
地の「EXPERIMENT (エクスペリメント) = 実験」的な舞台芸術を創造・発信し、芸術
表現と社会を新しい形の対話でつなぐことを目指しています。演劇、ダンス、音楽、美術、
デザイン、建築などジャンルを横断した実験的表現が集まり、そこから生まれる創造、体験、
思考を通じて、新たな可能性をひらいていきます。

国内外の先鋭的なアーティストによる作品を上演する「Shows」、京都および関西地域を
アーティストとともにリサーチし、未来の創作基盤につなげていく「Kansai Studies」、
トークやワークショップなど鑑賞とは異なるフォーマットで、舞台芸術に限らず先端的な
思考に触れる「Super Knowledge for the Future [SKF]」の3つのプログラムで展開します。

カンパニー XY with ラシッド・ウランダン 「Möbius / メビウス」

 日程：11月上旬
 会場：サウスホール

主催

舞踊



©Pascale Cholette



©Christophe Raynaud De Lage

世界中で人気を集める現代サーカス集団が京都に初登場！

フランスを拠点に、世界中で注目を集める現代サーカスカンパニー。“集団で行うアクロバット”にこだわり、高度なアクロバット技術とチームワークによって、身体のみで美しい情景をつくりだす彼らの作品は、世界各地で喝采を浴びています。「Möbius / メビウス」(2019年初演)は、舞台美術が一切ない舞台上で、19名のアーティストが空を舞うムクドリのように、抜群のチームワークで重なり、飛び、空中で身体をひるがえしながら、滑らかに美しい光景を描きだす最新作です。

演出・振付・出演：カンパニー XY

振付・コラボレーションアーティスト：ラシッド・ウランダン



カンパニー XY

フランスを代表する、現代サーカスのカンパニー。前代未聞となるアクロバットパフォーマー17名による「グランドC」(2009年)、22名からなる「夜はこれから」(2014年)など、集団でのアクロバットによる迫力のパフォーマンスとその芸術性の高さで世界中から注目を集めている。毎回、異なる振付家とのコラボレーションも話題。



© Pascale Cholette

ラシッド・ウランダン Rachid Ouramdane

アンジェ国立振付センターを卒業後、1995年よりアートプロジェクトを開始。2005年からアヌシーのボンリユー国立舞台、2010年からパリ市立劇場のアソシエート・アーティストを務めた後、2016年よりサーカス・アーティストであるヨアン・ブルジョワとグルノーブル国立振付センター(CCN2)の共同ディレクターを務めた。日本においては2012年に「万国博覧会(ワールド・フェア)」、2018年に「TORDRE」が上演されている。2021年4月、シャイヨー国立劇場のディレクターに就任。

チケット情報

全席指定

料金・発売日未定

<ツアー情報>

東京公演：10月21日(金)～23日(日) 世田谷パブリックシアター

愛知公演：10月27日(木)、28日(金) 愛知県芸術劇場

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

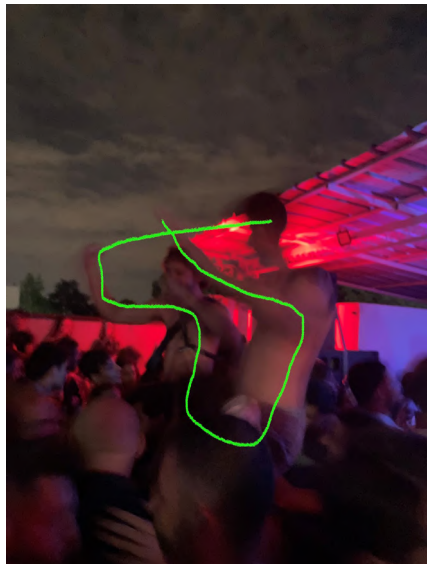
制作協力：世田谷パブリックシアター、愛知県芸術劇場

ロームシアター京都×京都芸術センター
U35 創造支援プログラム “KIPPU”2021 年度参加アーティスト
敷地理 「Hyper Ambient Club」

 日程：5月4日(水・祝) 19:00 開演
 5日(木・祝) 14:00/19:00 開演
 6日(金) 14:00 開演
 会場：ノースホール

共催

舞踊



2022年2月5日(土)、6日(日)に予定していた公演の延期開催です。

今作の振付で追求するのは、外部からの刺激を受けた際に身体にもたらされる、感情以前の微細な知覚反応。ダンスフロアで能動と受動を行き来する観客の身体に注目し、パフォーマーの身体が、同じ空間にいる観客をどう刺激し極度に繊細な状態を誘発させることができるかを実験します。

「アンビエント」とは、周囲の空間全体を示す言葉。本作ではまた、物質的な側面からユニセックスの概念を捉えなおすことで、匿名でニュートラルな身体が空間へ延長されるハイパーアンビエントな振付を考察します。

クラブを模した空間、荒井優作の音楽、そして OASIS2 によるスタイリングにも注目。

グッドバイブスなカルチャーと実験的な身体への考察が入り混じった本作は、多くの人にとって楽しく、忘れられない経験になるはず。

演出・振付：敷地理

音楽：荒井優作

出演：宇津木千穂、小倉笑、黒田健太、敷地理、服部天音、藤田彩佳、保井岳太

ドラマトゥルギー：朴建雄

衣装デザイン：oasis_2

舞台監督：小林勇陽

照明：渡辺佳奈

プロダクションチーム：小松菜々子、敷地理、島田千晴、原田佳苑

グラフィックデザイン：宇佐美奈緒


敷地理 Osamu Shikichi

振付家／ダンサー。身体をメディアとして、強い現実感を生むことを主題に作品制作を行う。主な作品発表に『happy ice-cream』(横浜ダンスコレクション 2020)、『shivering mass, loose boundary』(TPAM2020 フリンジ)、『blooming dots』(豊岡演劇祭 2020 フリンジ／CAF 賞 2020 / TPAM2021 フリンジ)、『Juicy』(横浜ダンスコレクション 2021) など。主な受賞に「横浜ダンスコレクション 2020」若手振付家のための在日フランス大使館賞など。

チケット情報

全席自由

一般 3,000 円、U29 2,800 円、U18 2,500 円 [発売中]

主催：敷地理

共催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都市

**ロームシアター京都×京都芸術センター
U35 創造支援プログラム “KIPPU”**

 日程：① 12月9日(金)～11日(日)
 ② 2023年2月9日(木)～12日(日)
 会場：ノースホール

2022 年度参加アーティスト ①空間現代 ②努力クラブ

共催

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ロームシアター京都と京都芸術センターが協働して行う創作支援プログラム「KIPPU」。ロームシアター京都が京都芸術センターと協働し、若手アーティストの発掘と育成を目的とした新たな制作支援プログラムです。5年目となる2022年度は、空間現代（京都）、努力クラブ（京都）の2組を採択しました。

[過去の参加団体・アーティスト]

2018年度：ブルーエゴナク（北九州）、安住の地（京都）、akakilike（京都）

2019年度：お寿司（京都）、オル太（東京）

2020年度：中川裕貴（京都）、シラカン（神奈川）、スペースノットブランク（東京）

2021年度：福井裕孝（京都）、敷地理（東京）

①空間現代×三重野龍「タイトル未定」

音楽

美術・映像



「ZOU」 Photo: Toshiaki Nakatani

いま熱い注目を集める京都拠点のアーティスト2組によるコラボレーション公演の第2弾。バンドの生演奏に三重野のタイポグラフィが交錯するスタイルを継続しつつ、舞台装置などの要素をさらに融合させ、身体性を高めたパフォーマンスの新たな形を模索します。「形」の概念を持つグラフィックデザインと、「時間」の概念を持つ音楽の融合による、まだ見ぬ表現を京都から立ち上げます。

出演：空間現代

グラフィック：三重野龍

グラフィックサポート：Takuma Nakata

音響：西川文章

照明：藤原康弘



©Mayumi Hosokura

空間現代 Kikangendai

2006年、野口順哉 (Gt,Vo)、古谷野慶輔 (Ba)、山田英晶 (Dr) の3人によって結成。編集・複製・反復・エラー的な発想で制作された楽曲をスリーピースバンドの形態で演奏。これによるねじれ、負荷がもたらすユーモラスかつストイックなライブパフォーマンスを特徴とする。2016年9月、活動の場を東京から京都へ移し、自身の制作および公演の拠点としてライブハウス「外」を左京区・錦林車庫前に開場。先鋭的なアーティスト達とのジャンルを超えた作品制作も積極的に行う。2019年度、京都市芸術文化特別奨励者。

三重野龍 Ryu Mieno

グラフィックデザイナー。1988年兵庫県生まれ。2011年京都精華大学グラフィックデザインコース卒業。大学卒業後、京都にてフリーのグラフィックデザイナーとして活動開始。美術や舞台作品の広報物デザインや、ロゴ、グッズなど、文字を軸にしたグラフィック制作を実践。現在までなんとか生き延びている。


②努力クラブ 第16回公演「世界対僕」

演劇



撮影：小嶋謙介

ネガティブな／または社会でネガティブとされている、私的で後ろめたい事象や感情を題材に、それらを貶めるのではなく、共感を呼ぶ笑いへと昇華させたコメディを得意とする「努力クラブ」。座付作家の合田団地による新作「世界対僕」では、“新作”にまつわる劇団代表と劇団員の葛藤から、今の時勢に創作環境に身を置く人々と、その背景にある現代社会への問題意識を取り扱います。

作・演出：合田団地


努力クラブ doryokukurabu

2011年合田団地と佐々木峻一を中心に結成。京都を拠点に活動する劇団。神戸アートビレッジセンター「KAVC FLAG COMPANY 2020-2021」、アイホール（伊丹）「次世代応援企画 break a leg」2022年度に選出。作・演出の合田が京都芸術センター「KAC Performing Arts Program」にて委託を受け作品制作を行うなど精力的に活動している。ネガティブな題材を用いてコメディをする。なんとなく嫌なものに対しての救いになりたいというのが、僕らの希望。嗚呼、駄目なものに対して優しくありたい。

チケット情報

①席種・料金・発売日未定

②席種未定 前売：一般 3,000 円、学生 2,500 円 当日：一般 3,500 円、学生 3,000 円ほか券種あり [11月27日(日) 一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市

※上記は企画の主催クレジットとなります。各公演は、主催：参加団体、共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市で開催します。

木ノ下歌舞伎「桜姫東文章」

主催

演劇

日程:2023年2月22日(水)、23日(木・祝)

会場:サウスホール


**木ノ下歌舞伎が満を持して
岡田利規とタッグを組み新作発表！**

現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する木ノ下歌舞伎が、約5年ぶりに新しい演出家を招き新作を発表します。新たな演出家は、国内外で活躍し、近年の能の翻訳や能の形式での新作の上演などにも意欲的に取り組むチェルフィッチュの岡田利規。木ノ下裕一監修・補綴のもと、岡田利規書き下ろしの上演台本で、数々の演出家が手がけてきた鶴屋南北の代表作「桜姫東文章」に挑みます。未曾有の天災や人災、コロナウイルスの蔓延など、社会が大きく変容し続ける現代に、価値観を問い直す意欲作です。岡田利規と歌舞伎がどんな化学反応をみせるのか、木ノ下歌舞伎の新たな取り組みにご期待ください。

作: 鶴屋南北
 監修・補綴: 木ノ下裕一
 脚本・演出: 岡田利規
 出演: 成河、石橋静河 ほか

■「桜姫東文章」創作・上演に向けておこなったプレトークのレポートをWEBマガジン「Spin-Off」に掲載中

https://rohmtheatrekyoto.jp/archives/report_sakurahime2021talk_01/



©Kikuko Usuyama

岡田利規 Toshiki Okada

演劇作家 / 小説家 / チェルフィッチュ主宰。

1973年横浜生まれ、熊本在住。活動は従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞受賞。小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』で第2回大江健三郎賞受賞。2016年よりミュンヘン・カンマーシュピーレのレパートリー作品演出を4シーズンにわたって務め、2020年『The Vacuum Cleaner』がドイツの演劇祭 Theatertreffen の“注目すべき10作品”に選出。『プラータナー：憑依のポートレート』で第27回読売演劇大賞 選考委員特別賞受賞。戯曲集『未練の幽霊と怪物 挫波／敦賀』で第72回読売文学賞 戯曲・シナリオ賞、第25回鶴屋南北戯曲賞受賞。2019年度から続けて「劇場の学校」講師を務める。



ロームシアター京都レパートリー作品
 木ノ下歌舞伎「糸井版 摂州合邦辻」
 ©東 直子

木ノ下歌舞伎 Kinoshita Kabuki

歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する団体。あらゆる視点から歌舞伎にアプローチするため、主宰である木ノ下裕一が指針を示しながら、さまざまな演出家による作品を上演するというスタイルで、京都を拠点に2006年より活動を展開している。代表作に『東海道四谷怪談一通し上演一』、『隅田川』、『娘道成寺』、『義経千本桜一渡海屋・大物浦一』、ロームシアター京都レパートリー作品『糸井版 摂州合邦辻』など。2015年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネート、2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、木ノ下裕一が平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。

チケット情報

席種・料金未定 [12月3日(土) 一般発売開始]

<ツアー情報>

東京公演: 2023年2月2日(木)～2月12日(日) (予定) あうるすぽっと
 豊橋公演: 2023年2月18日(土)、19日(日) 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
 新潟公演: 2023年2月26日(日) りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館
 久留米公演: 2023年3月4日(土)、5日(日) 久留米シティプラザ

企画制作・製作: 木ノ下歌舞伎／一般社団法人樹来舎
 主催: ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

■ 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022 「蝶々夫人」

主催

音楽

日程：10月25日（火）
27日（木）両日 13:00 開演
会場：メインホール



2017年公演／撮影：寺司正彦

演目：ジャコモ・プッチーニ：「蝶々夫人」全2幕
（イタリア語上演 / 日本語字幕付）

指揮：阪哲朗

演出：栗山民也

蝶々夫人：木下美穂子

ピンカートン：村上公太

シャープレス：近藤圭

スズキ：但馬由香

ゴロー：糸賀修平

ボンゾ：畠山茂

ヤマドリ：高橋正尚

ケート：佐藤路子

合唱：新国立劇場合唱団

管弦楽：京都市交響楽団

チケット情報

全席指定

2,200 円（高校生および引率者〔学校団体〕）

＊残席がある公演日に限り、高校生以下および一般への事前販売を行います（料金：高校生以下 2,200 円、一般 4,400 円）
〔高校生以下 9月10日（土）／一般 10月8日（土）発売開始〕

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、新国立劇場

助成：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

協賛：ローム株式会社

■ 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIX 子どものためのオペラ 歌劇「ラ・ボエーム」より ローム クラシック スペシャル

主催

音楽

日程：2023年3月
会場：メインホール



© 大窪道治

毎年恒例となった、京都府内の小学生を対象としたオペラ公演です。本公演と同じ舞台で繰り広げられる、迫力あるオペラの上演（一部抜粋）は、オペラ鑑賞が初めての子どもたちも、楽しく体験出来る機会となっています。

音楽監督：小澤征爾

管弦楽：小澤征爾音楽塾オーケストラ

ほか

チケット情報

京都府内の小学生 6年生を対象にした招待公演です。学校単位での申込のみとなります（夏以降に募集開始予定）。

主催：小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン

京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

共催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

協賛：ローム株式会社

企画・制作：ヴェローザ・ジャパン

I 劇場の学校

主催

演劇

舞踊

美術・映像

学び

日程：7～8月



© 金サジ (umiak)

2019年度からスタートしたロームシアター京都の「劇場の学校」。4年目は「演劇」「舞踊」「メディア表現」の3つのコースを設け、国内外の第一線で活躍するアーティストたちが講師を務めます。各分野の表現について、参加者自身が身体を動かし、考え、ともに「創る」ことに取り組みます。また、コースに関連した多様なオープンクラスも実施します。

[講師]

演劇コース：岡田利規（演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰）

舞踊コース：木田真理子（ダンサー）

メディア表現コース：山城大督（美術家・映像作家） ほか

岡田利規 Toshiki Okada

→ p.21 参照



© Hironori Tsukue

木田真理子 Mariko Kida

ダンサー。ローザンヌ国際バレエコンクール受賞後、カナダ、スウェーデンでプロダンサーとして活動し、ブノワ賞（ロシア）、レオニード・マシーン賞（イタリア）、文化庁長官表彰（国際芸術部門）など受賞。スウェーデン王立バレエ団での活動後、2016年よりフリーランスに転身し、ピナ・バウシュ・ヴッパタール舞踊団に客演するなど各国で活躍。2021年4月より芸術文化観光専門職大学准教授。共著に『22世紀の荒川修作+マドリン・ギンズー天命反転する経験と身体』（フィルムアート社、2019年）がある。4年連続で「劇場の学校」講師を務める。



Photo: Nobutada OMOTE

山城大督 Daisuke Yamashiro

美術家／映像作家。映像の時間概念を空間やプロジェクトへ応用し、その場でしか体験できない〈時間〉を作品として展開する。インスタレーション作品《VIDERE DECK》で第18回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品受賞。主な展覧会に森美術館「六本木クロッシング2016展：僕の身体、あなたの声」。子どもと共創するプロジェクト「子どもと大人と社会の現場《NENNE | ねんね》」を2018年より始動。京都芸術大学専任講師。ロームシアター京都では、プレイ！シアター in Summer 2018にて、映像や音、光による上演型インスタレーション「風をたべる、光をのむ」を発表。「劇場の学校」では講師2年目となる。

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

II ロームシアター京都×京都市ユースサービス協会連携事業
未来のわたし - 劇場の仕事 -

主催

学び

日程：通年



主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、公益財団法人京都市ユースサービス協会、京都市

III リサーチプログラム

主催

学び

日程：通年

※ 2023年3月に最終報告会を予定



プログラム策定のためのリサーチ、舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的に、2017年度よりリサーチプログラムを実施しています。2022年度も重点テーマである「現代における伝統芸能」「子どもと舞台芸術」、「舞台芸術のアーカイヴ」、そして自由テーマのリサーチャーを募集しています。

メンター：吉岡洋（京都芸術大学文明哲学研究所特任教授）

若林朋子（立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任教授、プロジェクト・コーディネーター）

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

| ホリデー・パフォーマンス

主催

音楽

日程：年2回開催

会場：パークプラザ3階共通ロビー（予定）

音楽を中心としたパフォーマンスを無料で楽しみいただけるシリーズです。ジャンルにとらわれない多様なパフォーマンスを紹介し、日常で気軽にアートに触れる機会を創出します。

2022年度は、「即興／変化」というテーマに沿ったアーティストを迎えます。

Vol.10 日程：4月30日（土）14:00 開演 出演：大所帯非楽器アンサンブル POLY!



大所帯非楽器アンサンブル POLY!

規格化された日用品たちの潜在能力を掘り起こし、あらたに個性的な音を奏でる奏具としてとらえなおす。そうして再発見された奏具を様々なバックボーンを持つメンバーたちが使用することにより“ドレミ”の外側に飛び出す予想のつかないコミュニケーションの出現を目論む。「サウンドパフォーマンスプラットフォーム2019」などに出演する一方、環境を楽器として見立てる「SOTO POLY!」など自主企画でも活動中。

Vol.11 日程：11月19日（土）14:00 開演 出演：米子匡司



米子匡司 Tadashi Yonago

音楽家・エンジニア。トロンボーン・ピアノ奏者。楽器と自作の電子楽器を使ったライブ演奏、自作の楽器／音響装置によるインスタレーションの制作、屋外に着目したイベントや録音作品の制作などを行う。これまでに SjQ/SjQ++(cubic music/HEADZ)、越後屋 (NOISE McCARTNEY RECORDS) などのグループに参加。国内のほか、マレーシア・シンガポール・ドイツなどで展覧会・ライブイベントに参加。

チケット情報

無料、申込不要

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

| “いま”を考えるトークシリーズ

主催

学び

日程：年2回開催

会場：パークプラザ3階共通ロビー など

2017年より連続開催しているトークシリーズ。多様な角度から同時代の社会を知り、捉え直すためのトピックを挙げ、それにまつわるゲストを招きます。複雑化し、混迷する現代を「いかに生きるべきか」。その手がかりを探り、ともに考えていきます。

Vol.19 ケア&フェミニズムの視点から、演劇創作をアップデートする

日程：5月14日（土）15:00 開始 ゲスト：岡野八代（政治学者）、山口茜（劇作家・演出家）

第19回目は、西洋政治思想史、フェミニズム理論を専門とし、国内における「ケア」をめぐる言論の先駆者である岡野八代と、京都を拠点に小劇場演劇界で活動し、劇作と演出の両面から身体性・社会性・人間の関係性を見つめる創作をつづける山口茜（サファリ・P/トリコ・A）を迎えます。演劇は、もれなく他者に役割を期待し、相互に責任を負いあうことで生み出される表現形態だといえます。演劇創作と子育てを並行する山口の日々の実感を聴きつつ、相互依存の関係を肯定する「ケアの倫理」の視点を知ること、2022年の「ケア」と「演劇」の接続点を見出します。



岡野八代 Yayo Okano

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教員、専門は西洋政治思想史・フェミニズム理論。主著に『ケアするのは誰か？：新しい民主主義のかたちへ』（2020年、白澤社、ジョアン・C. トロントとの共著）、『戦争に抗する——ケアの倫理と平和の構想』（2015年、岩波書店）、『フェミニズムの政治学——ケアの倫理をグローバル社会へ』（2012年、みすず書房）、訳書にケア・コレクティブ著『ケア宣言：相互依存の政治へ』（2021年、大月書店）など。



山口 茜 Akane Yamaguchi

劇作家、演出家。2003年 OMS 戯曲賞大賞受賞。2007年若手演出家コンクール 2006 最優秀賞受賞。2007年から2009年文化庁新進芸術家海外留学制度研修員としてフィンランド国立劇場に在籍。2012年文化庁芸術祭新人賞受賞。2015年利賀演劇人コンクール優秀演出家賞一席を受賞。2016年から2018年セゾン文化財団シニアフェロー。2018年関西ベストアクト第3位に選出。2019年『悪童日記』が FemArt Festival（コソボ共和国）、瀬戸内国際芸術祭（香川県）に招聘される。

※ Vol.20 の詳細は決定次第 WEB サイトにて発表

チケット情報

無料、事前申込優先

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

プレイ！シアター in Summer 2022 ステージプログラム
「快傑ゾロ」 アルファ劇場 from チェコ共和国
<全編日本語上演>

日程：8月7日（日）11:00/15:00 開演
 会場：ノースホール

主催

音楽

演劇



こどもたちの夏休みのために、人形劇王国チェコから、歴史ある人形劇団が来日！

2020年8月、2021年8月に予定していた公演の延期開催です。

ユネスコ無形文化遺産にも登録されているチェコ人形劇。中でも今、最も歴史ある人形劇団「アルファ劇場」が来日します。現代チェコ人形劇最高の演出家であるトマーシュ・ドヴォジャーク監督の最新作「快傑ゾロ」は、世界的に著名なメキシコのゾロ伝説を、人形劇ならではのリズムカルなテンポとスピーディーな展開で、ユーモアと風刺たっぷりに描いた作品です。チェコの古典的なマリオネットを用い、マリアッチ（メキシコ民俗音楽楽団）形式の楽師による陽気な生演奏が物語を盛り上げ、迫力ある舞台美術が劇場空間をゾロの世界に導きます。ことばに頼らずとも「快傑ゾロ」の魅力あふれるストーリーがしっかり伝わり、こどもたちの夏休みを豊かに彩ります。

演出：トマーシュ・ドヴォジャーク

出演（予定）：マルティン・バルトウセック、ペトル・ボロフスキー、マルティナ・ハルトマノヴァー、

脚本：ヴィート・ペジナ

トマーシュ・イエレシュ、ロベルト・クロウパル、マリエ・ムラズコヴァー、

美術：イヴァン・ネスヴェダ

ペトル・ヴィダレニー

音楽：ヴラディスラフ・シュラーメク

演奏：ヴラスト・ヴォルダ ほか

照明・音響：マチェイ・ジークル



アルファ劇場 Divadlo Alfa

世界遺産の町並みと芸術文化の魅力あふれるチェコ共和国は、人形劇が盛んな国としても知られています。なかでもピルゼン市は、人形美術家ヨゼフ・スクパや映像作家イジー・トルンカを輩出した、チェコを代表する人形劇の町です。そのピルゼン市を拠点とするアルファ人形劇場は、チェコの伝統的作品のみならず、プーキンやシェイクスピアなど他国の古典や新作にも取り組みながら、高い芸術性とエンターテインメント性で世界を魅了する、チェコ最高峰の人形劇団です。

チケット情報

全席自由

大人 2,500 円、こども（18 歳以下）1,000 円、こども＋大人ペア 3,000 円 [6 月 18 日（土）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

協力：ブーク人形劇場

助成：チェコ共和国文化省

特別協賛：ローム株式会社

プレイ！シアター in Summer 2022 オープンウィーク

主催

音楽

演劇

舞踊

美術・映像

日程：8月13日（土）～18日（木）

会場：全館



撮影：山地憲太

今年も開催！家族や友達と楽しめる、ロームシアター京都の夏休み恒例イベント

“劇場で遊ぼう！”を合言葉に、毎年たくさん子どもたちが集まる大好評企画「プレイ！シアター」。

今年はパワーアップして“オープンウィーク”と銘打ち6日間開催します。

ご家族、お友達を誘ってロームシアター京都におこしください！

チケット情報

無料、申込不要（予定）

プレイ！シアター in Summer 2022 京都市交響楽団 0歳からの夏休みコンサート

主催

音楽

日程：8月14日（日）11:00/14:00 開演

会場：メインホール



撮影：山地憲太

毎年恒例となった、0歳から参加可能な、京都市交響楽団によるオーケストラコンサート。今年は、絵本とオーケストラのコラボレーションです。人気絵本作家の谷口智則をゲストに迎え、絵本と音楽の組み合わせのほか、ライブペインティングもお楽しみいただけます。

指揮：石崎真弥奈

オーケストラ：京都市交響楽団

ライブペインティング：谷口智則（絵本作家）

チケット情報

全席指定

小学生以上 800 円、未就学児無料 [6月18日（土）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

特別協賛：ローム株式会社

OKAZAKI PARK STAGE 2022

主催

音楽

演劇

舞踊

 日程：10月1日(土)～16日(日) (予定)
 会場：ローム・スクエア


Photo: Toshiaki Nakatani

ロームシアター京都の中庭「ローム・スクエア」を会場に今年も多彩なパフォーマンスをお届けします。毎年おなじみの岡崎地域を中心とした市民ステージに加え、今年は独自の視点で京都カルチャーを発信するギャラリー&ショップ「VOU / 棒」オーナーの川良謙太との共同企画イベントの開催や、アーティスト小山田徹とともに、語らいと縁食の共有空間をひらきます。



チケット情報

無料、予約不要

企画製作：ロームシアター京都 主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

**地域の課題を考えるプラットフォーム
「仕事と働くことを考える」(その2)**

①村川拓也 演出「Pamilya (パミリヤ)」

②トークセッション

主催

演劇

学び

①日程：12月下旬

会場：ノースホール

②日程：通年

会場：パークプラザ3階共通ロビー



「Pamilya」撮影：富永亜紀子

2021年度に引き続き、「仕事と働くこと」をテーマに、様々な角度から考えるヒントを探ります。また、2020年度の本プログラムで映像上映を行った舞台作品「Pamilya (パミリヤ)」(演出：村川拓也)の上演も行います。本作は、フィリピンから来日した介護士が実際に出演し、彼女が働く介護福祉施設の日常を舞台上で再現します。



© Guoqing Jiang

村川拓也 Takuya Murakawa

演出家・映像作家。ドキュメンタリーやフィールドワークの手法を用いた作品を、映像・演劇・美術など様々な分野で発表し、国内外の芸術祭、劇場より招聘を受ける。1人のキャストとその日の観客1人を舞台上に招き、介護する／されることを舞台上に再現する『ツァイトゲーバー』はシンガポール、ドイツなど国内外で上演を重ねている。虚構と現実の境界に生まれる村川の作品は、表現の方法論を問い直すだけでなく、現実世界での生のリアリティとは何かを模索する。主な作品に、『ムーンライト』(ロームシアター京都「CIRCULATION KYOTO- 劇場編」2018、フェスティバル/トーキョー20)、『Pamilya (パミリヤ)』(キビるフェス2020)、『事件』(大学開学30周年・劇場20周年記念公演 京都芸術劇場 春秋座/2021)など。2016年には東アジア文化交流使(文化庁)として中国・上海/北京に滞在。京都芸術大学映画学科 非常勤講師。第21回AAF戯曲賞にて、『事件』が特別賞を受賞。

チケット情報

①全席自由 一般3,000円、ユース(25歳以下)1,000円、18歳以下500円

②無料、事前申込優先

[発売日未定]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

ROOMシアター京都×京都市文化会館 5 館連携事業 「シアターデビュー！」促進プログラム

主催

舞踊

日程：9月4日(日)、11日(日)

11月13日(日)、19日(土)、27日(日)

会場：京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、
京都市西文化会館ウエスティ、京都市北文化会館、
京都市右京ふれあい文化会館

京都市内の文化会館と協働し、未就学児向けの作品上演を行います。地域のこどもたちが初めて劇場に足を運ぶ＝“シアターデビュー！”の機会をつくり、これを契機に地域コミュニティと劇場の結びつきを深めます。2022年度はROOMシアター京都が新たに製作するオリジナル演目が登場。おとなとこどもが一緒に楽しめる場をつくります。

構成・出演：中間アヤカ

美術：TAIYA

出演：佐藤健太郎、垣尾優



© Bea Borgers

中間アヤカ Ayaka Nakama

1992年別府生まれ、神戸在住。ダンサー。英国ランベール・スクールを卒業後、文化庁・NPO法人DANCE BOX主催「国内ダンス留学@神戸」1期に奨学生として参加。近年では黒沢美香、木村玲奈、contact Gonzo、チェルフィッチュ等の作品に出演する傍ら、自身の作品制作も行う。2019年にArtTheater dB Kobeにて初演した中間アヤカ&コレオグラフィ『フリーウェイ・ダンス』は、TPAM国際舞台芸術ミーティング in 横浜、KYOTO EXPERIMENT、クンステン・フェスティバル・デザール、ベルリン芸術祭、ポンピドゥ・センター等で再演を重ねる。誰かや何かに振り付けられる身体にこだわりを持ち、ダンスとしか呼ぶことのできない現象を追いかけている。2018年度よりDANCE BOXアソシエイト・アーティスト。2022年度よりセゾン文化財団セゾン・フェロー。

チケット情報

席種・料金未定 [7月発売予定]

主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団（ROOMシアター京都、京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、京都市西文化会館ウエスティ、京都市北文化会館、京都市右京ふれあい文化会館）、京都市

WEB マガジン 「Spin-Off (スピノフ)」

学び

月2回更新中

SPIN-OFF

by ROHM Theatre Kyoto



月2回更新中

<https://rohmtheatrekyoto.jp/spin-off/>

ROOMシアター京都の自主事業（劇場自らが企画あるいは招聘し、主催または共催としておこなう事業）の上演・実施において、企画の趣旨や魅力、それらの背景を紹介するプラットフォームとしてWEBマガジンを運営しています。

Spin-Offでは、作品に関するインタビューやコラム、上演した公演のレポートやレビューを掲載するほか、社会と芸術にまつわる多様なテーマに基づく論考や連載も掲載します。上演の場所としてだけでなく、思考するメディアとしてのROOMシアター京都のすがたを蓄積していきます。また、若手の書き手への公演レビューの執筆・掲載にも取り組み、あらたな出会いを通して関西圏の舞台芸術シーンにおける批評の活性化をめざします。

機関誌 「ASSEMBLY (アセンブリー)」

学び



ROOMシアター京都自主事業として2017年度より発行している機関誌。2021年よりWEB版としてリニューアルしました。WEBマガジンとなる『ASSEMBLY』は、インターネットと消費の海に流されない、継続した議論を実現するための試みとして、2021年から継続して3つの主題「ひとり」「ふつう」「知らない」をかかげ活動します。

<https://rohmtheatrekyoto.jp/spin-off/assembly/>

アセンブリープログラム



ロームシアター京都では、市民に憩いの場を提供し、新しい“京都会館”＝ロームシアター京都を象徴するプログラムのひとつとして、日常的に「アセンブリープログラム」を開催しています。

アセンブリープログラムは、「ほんものとの出会い」を作り出す京都岡崎 蔦屋書店（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）と連携し、賑わいを生み出すために行うさまざまなイベントの総称です。

ロームシアター京都が目指す劇場文化を育むための入り口として、気軽に参加できるマルシェや読書会、トークイベントなどのプログラム、一般参加型のワークショップなどのプログラム、ロームシアター京都自主事業と連動したプログラム、地域施設・団体と連携したプログラムを展開しています。

【過去開催したアセンブリープログラムの一例】

- ・マルシェ（岡崎いんどりマルシェ ほか）
- ・ワークショップ（切り絵でクリスマスのフレームやモビールを作ろう!! ほか）
- ・トークイベント
- ・展示企画 ほか

音楽総合体験施設 ミュージックサロン

場所 パークプラザ 3 階



ミュージックサロンは、音楽とさまざまな形で触れあえる施設です。本格的な音響施設を備えた 120 インチスクリーンでのオペラ等の鑑賞や、音楽家によるコンサート、専門家によるセミナーなど随時開催しています。

入場無料 ※一部整理券が必要な場合あり

共同運営：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

共催：ローム株式会社